

春ノ十二裏

いとをしかりし四歳へさいへになるむすめのえん
にいてむかひて父へちへゝのきたるかうれしき

とて袖にとりつきたるをたぐひなく

いとをしく目もくれて覚えけれども

是こそ煩惱へほんなうゝのきづなをきるはじめと

思ひてゑんよりけおとしたりければ

なきかなしひけれどもみゝにも聞入ずし

て内に入てこよひばかりの宿り

そかしとなみたむせひてそ哀へあはれへに覚え